東京多摩プロバスニュース

第 90 号

■事務局: 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 3-31-3 滝川方■編集･発行:広報委員会 2020.9.2.
■電話・FAX (042)372-2238 ■URL: http://www.tokyo-tama-probusclub.com

共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

第 17 期 定期総会、第 193 回 定例会
日 時 :令和2年7月1日(水)午後1時30分より
場 所 :関･一つむぎ館3階第1会議室
お客様 :片倉満様
出席者 :20名(会員数25名)

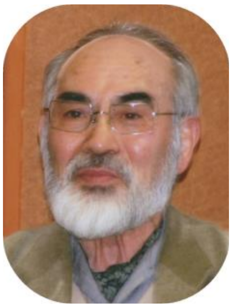
第 194 回 定例会
日 時 :中止
場 所 :
お客様 :
出席者:

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

新年度を迎えて 高村弘毅会長



令和2年は残念ながら災害大国と悪名高いわが国の災害例として後世に残したくないのでありますが、今年も例年に漏れず九州・四国地方など西日本では大洪水、落雷、地滑り等の災害が多発し多くの犠牲者が出ました。心からご冥福をお祈りします。

人為的発生源の新型コロナウイルス感染疫と違って、気象、地形など自然現象に起因するところも少なくないが、良く考えてみると人口の約20%が山地で生活し、約80%が谷平野、沖積低地で生活するという我が国の地勢に因果している処が多いからだと思います。自然環境と人為的因果による災害が多いことを我々が根底から考え直してみる必要があります。

多摩市はニュータウン開発で自然環境が脆弱になっておりますが、住民の老齢化現象が進化する現在、自然環境への修復を真剣に考えて診る必要があります。水と緑に富み、涼感に溢れ、蛙鳴蝉噪(あめいせんそう)にして水と風の音に魅了する環境を子供たちに残しておきたい思いであります。

1886年に後の若き詩人となる石川啄木が岩手県に生誕しました。彼は若干26歳の短い人生であったが和歌の「3行書き法」のイノベーションを志した。なかでも気惚れした一句に「天地の酸素(O:著者挿入)の神恋成りて水素(H:著者挿入)ついに水(H_2O)になりけり」があります。素晴らしい名句ですが、水は人文科学と自然科学が包含してこそ水環境の現象を理解できるものと考えております。気が付くのが遅すぎた感があるが「覆水盆に返らず」の怖さを考えると、多摩市の自然代謝への修復は今からでも遅くないものと思う。

落合地区のイチョウ街路樹と鶴牧地区のイチョウ街路樹を繋ぐイチョウ橋 (春の新緑と秋の黄葉が素晴らしい)

長い人生でいろいろの経験をし、豊かなアイデアをお持ちのプロバスの方々に矜持していただくことを期待しております。この思いは、闊達な方々が大勢おられる中で不細工な小生が奇しくも伝統ある多摩プロバスクラブの第17期会長に選出されたことについては、その責任と重大性を甚深に痛感したからであります。会員の知見を出し合って幼年から高齢者までの育成環境を敬愛の精神で活躍していきたいものです。

◇◇◇　第17期定期総会･臨時総会　◇◇◇

第17期定期総会(令和2年度)が7月1日（水）午後1時30分より関・一つむぎ館第1会議室で行われた。総会は議長に山田正司･書記に永田宗義両会員が選出されて審議に入り､第1号議案から第6号議案まで異議なく承認された。今年度はコロナ禍により、活動が自粛・制限される中、第16期・17期に向けて活動の方向を下記の通り決めました。

①第16期は従来通り6月末までとし､第17期を7月より開始する。
②第16期の理事・監査は8月末まで継続担当とし、その間に新体制を整える。
③9月2日に臨時総会を開き、第17期の活動方針、予算案を諮問する。
④会員増強プロジェクトを「会員委員会」と改める。

定期総会の風景

第17期臨時総会は当初9月2日に開催される予定でしたが､コロナ禍の状況を鑑みて書面表決にて行なうこととした。8月25日〆の表決の結果、議案①から④まで異議なく承認された。

①第17期理事・監査選任案。
②第17期活動方針案。
③第17期予算案。
④会則・運営細則の改定案。

第17期の新役員、基本目標と活動方針は以下の通り。

1. 令和2年度新理事・監査

会長	高 村 弘 毅
副会長	増 山 敏 夫
幹事	飯 作 金 彦
副幹事	小 林　 務
会計	小 島　 明
総務委員会委員長	鈴 木 泰 弘
研修・親睦委員会委員長	小 林　 務(兼務)
地域奉仕委員会委員長	澤　 雄 二
広報委員会委員長	伊 藤 健 一
会員委員会委員長	飯 作 金 彦(兼務)
監査	北 村 克 彦

新任の役員；左から伊藤広報委員長、小林副幹事, 研修・親睦委員長(兼務)、北村監査、鈴木総務委員長、高村会長、飯作幹事, 会員委員長(兼務)、小島会計、澤地域奉仕委員長

2. 令和2年度基本目標と活動方針　　高村弘毅会長

<スローガン>「共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう」

1）基本目標

先達の豊富な経験を活かし、それぞれの個性を敬愛して、炭素化社会と高齢化社会を知悉しながら進化して学び、地域社会に澪杭になるように楽しいクラブにしましょう。

2）活動方針

① 温故知新を基軸とする運営。
②プロバス会員間の交流・親睦を深める。
③多摩市内のGeo-park資源の発掘と開発。
④多摩市内と近傍地域の「水と緑の空間」に親しみ、楽しむ活動。
⑤多摩市内の自然音＜風・水・雨・野鳥・セミ＞・香・臭・色彩・視界度＜富士山・北方・星夜・晴天＞の探求。

◇◇◇　幹事･委員会報告　◇◇◇

1. 幹事報告　　秋山正仁幹事

年明けから新型コロナウィルスの蔓延が危惧され、公共施設の閉鎖やイベントの自粛要請を受けて当クラブも感染拡大防止のため、定例会・理事会他すべての計画を見送った。その中で状況を見守りつつ理事会等の活動を行った。

1)プロバスクラブの運営

第17期総会について…上記の通り
定例会：3月、4月、5月、6月の開催中止
理事会：3～5月は電話等での協議を重ね、6月は臨時理事会を毎週開き直近の対策を話し合った。

2）会員の動向

会員増強プロジェクトの活動成果として、飯作会員の紹介で3月に寺田桂子・清家美紗子の各氏、7月に廣瀬昌英氏が入会、また8月には堀内会員の紹介で片倉満氏が入会された。入会式は定例会が度々中止となった為、9月実施予定。又今回、滝川道子、滝川益男、神谷真一、鈴木達夫、上田清の各氏が休会、大澤亘氏が会友に、小池博氏が退会されました。

3）新年度の会員構成 令和2年8月1日現在

・会員：28名　内休会6名(前述5名他、中村昭夫氏)。

◇◇◇　幹事･委員会報告(つづき)　◇◇◇

4)池田寛氏2月15日(土)逝去されました。享年96歳。プロバスクラブ創立メンバーのお一人でプロバスソングの作詞をされました。謹んでご冥福をお祈りします。
5) 多摩ロータリークラブ、八王子・日野プロバスクラブ等への新理事就任の挨拶訪問は外出自粛のため書面にて行う。

2.委員会報告

2.1.総務委員会　　　　　　　　鈴木泰弘委員長

1) 3月～8月までの定例会は感染拡大防止の点からも中止とした。再開の見通しが立たず、4名の新入会員とのリレーションを大事にしたい。
2) 副幹事制と「会員委員会」の新設に伴い職掌の見直しを協議していく。

2.2.研修・親睦委員会　　　　　滝川益男委員長

第16期は9月のバスツアー「東京ベイゾーン見学会」を実施したものの、2月のバスツアー「皇居と湯島と東京タワー」や4月の同「足利学校・フラワーパーク訪問」を中止せざるをえず、残念でした。第17期が楽しい期になりますよう、祈っております。

2.3.地域奉仕委員会　　　　　　澤雄二委員長

コロナ禍に見舞われた今年だが、楽しく、価値ある体験もあった。人気だった高村会員の「湧水調査」、多くの人が街角に立った「赤い羽根募金」、交代で全員が参加したボランティア団体の打ち合わせ、皆さんが御婦人達の人気者に。意義がある1年でした。

2.4.広報委員会　　　　　　　登坂征一郎委員長

1)会報発行；五月、七月は休刊といたしました会報第90号は、関係各位のご協力得て紙上編集会議にて発行する運びとなりました。
2)ホームページの更新；1)に合わせ更新を実施いたします。

2.5.会員増強プロジェクト　　飯作金彦Pリーダー

会員増強の重要性と会員全員で増強に取り組んだ。今後も意識の高まりが感じられるよう努力します。

当年度(16期)目標とした会員増強目標3名、特に女性会員の増強奨励に対し、目標達成。(寺田さん、清家さん、廣瀬さんが入会。入会3名中2名が女性会員)。

◇◇◇ 新委員会(会員委員会)の紹介 ◇◇◇

第17期定期総会において、会員増強プロジェクトが9月より「会員委員会」と改められた。主たる活動目的は会員増強、サークル活動の推進、運営など。

「基本方針」：今年度より新しく発足した委員会としての重責を認識し、近い将来40名の組織となるべく会員増強に努める。

「活動計画」：1.在籍会員を維持しつつ、新入会員の増強に力を尽くす
2.サークル活動を奨励し、その方面より新入会者を求める
3.入退会者の管理及び休会中の会員との連絡と再入会の誘い
4.今年度の目標：3名以上の入会　　　(飯作金彦委員長)

◇◇◇　新入会員紹介　◇◇◇

◇清家美紗子氏

日野法人会多摩地区婦人部会副部長を長く務められ、飲食店も経営されて他人への思いやりもあり、多摩プロバスクラブの少ない女性会員として、今後の活躍が期待されます。今は新型コロナ禍のため定例会が開かれず、お会い出来ないのが誠に残念です。プロバスクラブの委員会では地域奉仕・会員委員会と兼務される事になりますが、新しい女性会員として誇らしい活躍を期待しております。　　(飯作金彦会員記)

◇寺田桂子氏

日野法人会の会員で、あらゆる集会や勉強会に出席されお知り合いになりました。お花の教室や、長くお花関係の仕事を経営され今でも配達などの注文は受けておられるそうです。現在体調不良で入院中と伺っておりますが、一刻も早く退院されプロバスクラブでの輝ける女性として活躍を期待しております。
(飯作金彦会員記)

◇廣瀬昌英氏

学年卒業後不動産業一筋に、不動産会社所長を経て現在会社経営に頑張っておられます。趣味はゴルフで又酒席もお嫌いではなく、時々一杯やっている仲間です。若さと行動力があり多摩プロバスクラブでのご活躍を期待するものです。
(飯作金彦会員記)

◇片倉満氏

片倉氏は1947年7月30日新潟生れ。東洋大学法学部卒業後(株)日本経済社入社、33年間勤務(札幌支社長や本社営業局長等歴任)。退社後(株)DMG社に入社。その後2010年広告代理店(株)ennを設立2019年迄代表取締役。1970年より多摩市に在住。小生と片倉氏とは近所同士で家族ぐるみ、今日迄45年のお付合いです。片倉氏は2003年頃から“関戸・一ノ宮コミセン”の運営メンバー(2015年から2019年迄運営協議会会長)で小生お誘いを受け仲間入り、現在共々ボランティア活動中です。　　(堀内陽二会員記)

◇◇◇　村上伸茲さんを偲んで　◇◇◇

村上伸茲さんは、東京多摩プロバスクラブ設立当初の幹事・第５期副会長・第６期会長の重責を担われ、特に蛍に係わる環境問題に取り組まれて当クラブの発展に尽力されてまいりました。令和２年２月８日ご家族に見守られてお亡くなりになりました。享年八十五歳。特に親交のありました会員から弔意を綴っていただきました。合掌。　文責：登坂征一郎

北村克彦会員；私が当クラブに入会した時の会長が村上さんでした。当時のモットーは、「豊かな経験を活かし、多様なプロバスライフを」で、そのためには、楽しく愉快に、健康で明るく前向きに取組みましょうという事でした。

印象に残るのは、自然環境の保全への取り組みの一つが、蛍の棲む環境を守るという事で、何回か現場で一緒に勉強をさせていただきました。

後年お付き合いをさせていただく中で、高齢社会におけるプロバスクラブの活動として、高齢者への傾聴活動などに取り組むことを提案されていました。

しかし、これらの思いが部分的にしか実行されなかったことに対して心残りがおありだったように思います。

お亡くなりになる一カ月ほど前にご自宅にお邪魔した際のにこやかなお顔が忘れられません。心よりご冥福をお祈りいたします。

鈴木泰弘会員；　昨年の定例会に奥様ご一緒で出席され、誕生祝いを受けられたお姿、卓話でコンチネンタルタンゴについてお話する楽しそうなお姿が忘れられません。合掌

滝川益男会員；大きなお体の村上さんは、少年のように純粋無垢なお心の持ち主で、日本の風物の代表であるホタルをこよなく愛されました。工学博士である村上さんの研究は「全日本ホタル研究会」の会員としての専門的な活動でした。村上さんからよく聞かされたのは、日本のホタルの乱雑な交配がもたらすエコシステムの破壊でした。ある時期、各地で盛んにホタルの放流が行われたのに対して、村上さんは、遺伝子の異なるホタルどうしの交配が生態系の破壊を招くのだ、と警告しておられました。

全国蛍研究会で講演する村上さん

かつて私が勤務していた八王子の大学にホタル研究会があって、ご一緒に訪問したことがあります。暮れゆく初夏のひととき、ヘイケボタルがチカチカと瞬くなか、キャンパス内のせせらぎの小道を村上さんは楽しそうに歩かれました。研究会の実験室では、ホタルの幼虫や餌のカワニナが入った水槽を覗き込んでは、学生たちを相手に専門知識を親しく伝授されました。学生たちは、専門家からの数々の指導に感激した様子でした。この場面は、私の忘れ得ぬ思い出となっております。後日、この大学のホタル研究の正しさが専門誌に報道されましたが、村上博士の影響によるもの、と私は感じております。

村上さん、あの世でもまた次の世でも、再びお会いしましょう。そのとき村上さんはきっと、専門書やレポートをダンヒルかコーチの高級カバン一杯に詰め込んで、颯爽と現れることでしょう。そして、あの人懐っこい笑顔を浮かべながら、「iPS 細胞や T 細胞は老化防止に効果があるから、この次は百歳過ぎまで生きて、一緒にプロバスの活動やホタルの鑑賞会をやろうよ」などと言われるかもしれません。

移動図書館を担った鞄たち

どうかそのときまで村上さん、安らかにお休みください。

阪東熙子会員；　村上会員は会報第 82 号のバーズデイひと言欄で「暮らしは低くとも思いは高く」と、ワーズワースの詩の理念で暮らしたいと話され、ご自身の美学を持ち紳士道を貫かれた方でした。スポーツカーに凝ったり、トレードマークの小さめの鍔の中折れ帽子や質の良い鞣しの大きめ鞄をご愛用されるなど、こだわりをお持ちでした。或る時タンゴオーケストラの演奏会が調布であるからと、お誘いを受け大喜び、奥様も交えて会場入り。「ラ・クンパルシーター、バラのタンゴ」色々、ストリングスの限りなく美しい響き、コンチネンタルならではの調べに、三人共酔い痴れ又来日した時、お知らせくださる事になっていました。

平成 21 年 12 月には、日本抗加齢医学会の会員として、村上さんが卓話されアンチエージングのテキストを配り専門用語で説明され、当時クラブには医療関係者不在でしたから、貴重な卓話だったことを覚えています。また、彼は蛍に造詣深く、生息の様子をわかり易くする為に、ダンボールで大きなジオラマを手造り、楽しませてくれました。

昨年の 11 月定例会つむぎ館では、隣同士の席となり、僕の誕生日は７日と、優しい笑顔で話されたのが、まさかプロバス出席の最後となるとは、同席の奥様も我々も知る由もないことでした。

コロナ自粛中の今年３月 27 日、京王プラザで泣きながらコーヒーを飲み、「語り尽す山雲海月の情」の体で奥様と私三時間位過しました。「時不待人」「人不同」。

大螢ゆらりゆらりと通りけり　　　　一茶

伊藤健一会員；私が東京多摩プロバスに入会したのは、村上さんからの推薦がきっかけでした。

ある日お会いした折に、私をどこかに紹介しようと思っているとおっしゃっていましたが、それが当クラブでした。

◇◇◇　村上伸茲さんを偲んで（つづき）　◇◇

氏と私とのつながりはともに同じ大学の応用化学科卒で氏は私より 10 数年先輩で博士課程を卒業されました。

いつも温厚でニコニコ顔が印象的な村上さんでした。ここ数年程のお付き合いで、ご高齢になられてからの村上さんしか知らないのですが、現役時代は大企業の研究者として活躍されておられました。根っからの研究者でしょうか、よく私に何か研究しましょうと話しておられました。

プロバスの一員にとなった当初、私は村上さんと同じ研修・親睦委員会所属となり、滝川益男委員長の元で働かせていただきました。昨年春の研修親睦旅行の観桜会で創価大学キャンパスを訪れた際、村上さんは創立者の偉業にたいへん感銘を受けられたようでした。村上さんは蛍研究者としても有名でしたが、蛍研究の関係で以前創大に来たことがあるとも話されていました。後で知ったことですが、氏は帽子マニアでスポーツカーが趣味だったとのことです。おしゃれでダンディーな村上さんだったんですね！もっと永くお付き合いができていたらよかったのにと悔やまれます。ご冥福をお祈りいたします。

◇◇◇　池田寛さんを偲んで　◇◇◇

会友の池田寛さんは、東京多摩プロバスクラブ設立以来からのメンバーで、発足間もなく今も歌い継がれている「プロバスソング」の作詞をされ、大所高所からクラブの発展に尽力されました。また、現会友の蓮池守一様と俳句の会「衒句会」の設立に尽力され現在の活動の礎を築かれました。令和２年２月 15 日享年九十六歳の天寿を全うされました。

池田さんは、俳号を故郷唐津に因んで「玄海」と称し、歴史的背景と体験を通しての抒情と粋と気骨に溢れた句風に感動を覚えます。衒句会の句友から追悼の句を詠んでいただきました。合掌。　　文責：登坂征一郎会員

鈴木泰弘会員；池田さんを悼む

現会員世代の心に響く歌詞……聖の桜・多摩の流れ・霊峰富士……を歌いやすいメロディーに乗せて、多摩プロバスクラブは始まります。ご冥福を祈ります。

滝川道子会員；池田さんご夫妻の思い出

何時の事だったでしょうか。奥様が庭で転倒され大ケガをされたと、とてもつらそうに話していらした池田さんのお顔を思い起こします。手作りのパウンドケーキを持ってお見舞いに伺いました。ご夫妻で大変喜んで下さり応接間でいろいろなお話を……。お二人で行かれた海外のお土産の記念のメダルや若き日のアルバム、御父上がどこかの国の大使をなさっていた頃の思い出を嬉しそうに……。

池田さんは、ちょっと取っつきにくいように見えましたが、とても気さくで明るい仲の良いご夫妻、お近づきになれて幸せでした。

衒句会会長増山胡桃子さん；玄海さんを偲んで

玄海さんは衒句会の名付け親であり、会の設立の際、蓮池秋霜(会友：蓮池守一)さんと共に尽力され、初代会長としても句会をけん引されました。高齢になられ句会に出てくることを止められてから投句を続けられ、句会後の講評が届くのを何時も首を長くして待っておられました。資料をお持ちすると「僕の今の楽しみは俳句なんです」とすぐに資料を広げてご自分の投句の講評を熱心に読まれ、納得がいくまで質問をされたりしました。昨秋入院先に句友三人で見舞いに訪れた折も、ベッドの上で作句されており、我々にお見せになりました。玄海さんの俳句は、映画のカットを撮るような、映画人ならではの映像の切り口と切れ味でした。

お洒落でダンディー、料理も嗜まれたようで、プロバスクラブの「男の料理教室」では講師を買って出られ、ビーフシチューを鮮やかに作って見せられました。大往生だったそうです。今ごろは、流馬、光花、志水の皆さんと天上句会を楽しんでおられることでしょう。天上より投句が届くかもしれません。ご冥福をお祈りいたします。

ビーフシチュ―は男の料理玉葱吊る　増山胡桃子
天上の句会楽しむ春の夜　胡桃子
太秦（うずまさ）を俳句に残し椿落つ　川久保魚水
映画から俳句世界春惜しむ　北村　岳人
四季の句に想い出残し春に立つ　鈴木　透水
行く春や玄界灘は今日も凪　滝川　露枝
矍鑠と粋を偲ぶや花辛夷　登坂　爽風
鳥雲に人恋ひ称ふ句を残し　蓮池　秋霜

〔注記；流馬：岡野一馬さん、光花：蓮池光枝さん、志水：倉賀野武士さんはプロバス会員で故人となられた方々です。〕

男の料理教室：ビーフシチューを堪能して
池田さんは後列左から４人目

◇◇◇ ハッピーバースディ◇◇◇

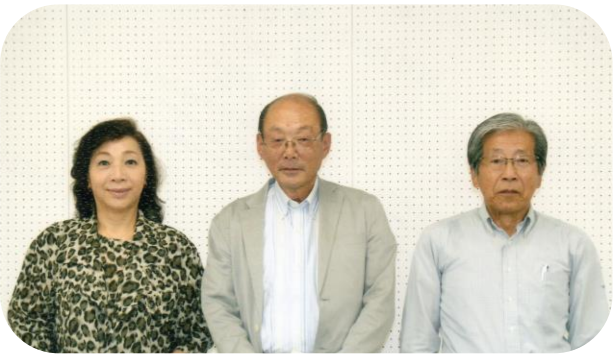
1. 4 月誕生日を迎えられました！

左から澤雄二・神谷真一各会員

澤氏一言；「嬉しさも程々なり誕生日」プロバスだけは嬉しい。

神谷氏一言；日々大事に、大切な友人と世に逆らわず過ごす。

2. 5 月誕生日を迎えられました！



左から阿部華歌・小島明・永田宗義各会員

阿部氏一言;8 人目の孫誕生に改めて思う、娘の幸せ願う親心。

小島氏一言；会計理事を任命されたので、一年間頑張ります。

永田氏一言；傘寿、健康第一で過ごし他人を思いやる行動を。

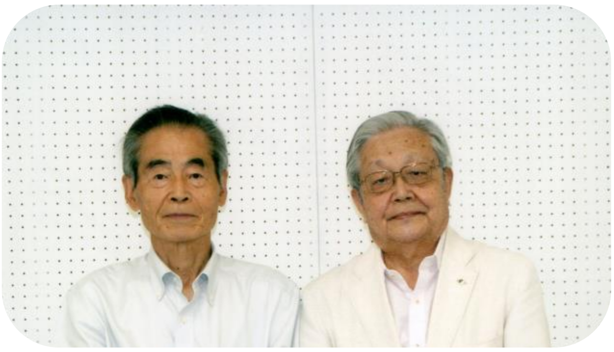
◇◇◇ 東京多摩プロバスクラブソング ◇◇◇

作詞　池田　寛
作曲　中村　昭夫

聖の桜仰ぎつつ　多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた　我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス　プロバス　多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ　心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて　次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス　プロバス　多摩プロバスクラブ

3. 6 月誕生日を迎えられました！



左から北村克彦・滝川益男各会員

北村氏一言;81 歳、健康に留意しつつ、新しいことにも挑戦を。

滝川氏一言;81 歳のお祝いの記念品を大切にさせて頂きます。

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

武漢封鎖の頃はまだ対岸の火事でした。しかし徐々に国内感染者が広がり始め、その後あっという間にパンデミックに。不要不急の高齢者の我がクラブの活動も休止に追い込まれました。当ニュースも５月、７月と二回の休刊、今号は久々の発行です。9 月より新しい 17 期を迎えました 16 期後半はコロナ禍により休会中も会の状況を懸念されご苦労された北村前会長始め、執行部のみなさんに感謝です。

○新スローガンは新会長の思いを解り易く標語化されていると思います。○新会長の挨拶。水害禍の日本の現状を改善するには、人の暮しと自然環境を地勢学的な視点で見直す必要がある。多摩 NT の開発により自然環境が脆弱になった。自然代謝の修復は未だ可能。石川啄木の3 行詩に「水」を詠んだ名吟がある。当クラブの叡知を生かして行きましょう。○恒例の橋の写真。街路樹と街路樹を繋ぐ極めてニュータウンらしい橋の景。○総会、臨時総会。16 期から 17 期への引継ぎが変則的になりました。17 期新理事の顔ぶれ紹介。○幹事・委員会報告。6 名もの方が休会に。ほぼ創立メンバー。コロナ禍回避の外出自粛か、体調不良によるものとお察しますが、体調の回復をお祈りするばかりです。○新委員会・会員委員会が正式に発足しました。○活動報告。これこそがニュースの大事な紙面ですが、今回はありません。淋しい限り。○新入会員の紹介。女性 2 名男性 2 名の新会員が加入されました。ご活躍を期待します。○お二方を偲ぶ記事。村上伸茲会員を偲ぶ 5 人の会員の追悼文は、いずれも生前の氏を髣髴とさせるもので、胸を打たれました。また池田寛会友を偲ぶ記事は、当クラブを退かれてからも俳句の会に所属され健吟され、余生を楽しまれた氏の生前を髣髴させるものになりました。

（広報委員　増山敏夫会員記）